

# 傍 証

本文中での出典の引証を「かっこ内傍証」という。これは、論文の後につける引証資料リストのみでは詳細で的確な傍証とは言えないため、引用の後につけるもの。

## I. かっこ内傍証の基本的なルール (MLA 第 6 版 6.1.-6.2.)

本文から独立した引用につける場合も、本文中の引用につける場合も以下のルールが適用される。

- A. かっこ内の引照の情報は引証資料リストに必ず対応していること。
- B. かっこ内の引照事項は、必要最低限のことを書くこと。
- C. 引用の終止符のあとに 1 スペース (外国語の文の引用の場合は半角 1 スペース、日本語の文の引用の場合は全角 1 スペース) 空けて、かっこ内傍証を挿入する。
- D. 引用の後にその著者の姓 (必要に応じて資料名) とページ数があればよい。下記の引用の (Allen 136-37)、(小泉 186) がそれにあたる。  
外国語、日本語のどちらであっても、著者の姓とページ数の間は半角 1 スペース空ける。

### 1. 本文から独立した引用の傍証

#### a. 外国語の文章の場合

半角の丸かっこ ( ) 内に傍証を入れる。

例)

**In 1855-56 Death was a philosophical problem, in 1860 it was chaos and frustration, but now the concept and expectation have become joyous, personal liberation-though still pantheistic in intellectual context. (Allen 136-37)**

1855 年から 56 年において死は哲学上の問題であり、1860 年においては混沌と欲求不満の種であった。しかし今それに対する考えと期待は喜ばしく、個人的な解放になった。まだ知識の上では汎神論の域を出なかったが。

#### b. 日本語の文章の場合

全角の丸かっこ ( ) 内に傍証を入れる。

例)

シルバスタインの活躍した一九六〇年代七〇年代は公民権運動や反戦運動が盛んな時代でした。ベトナム戦争があった時代でした。戦争の代わりに平和をという意味で

「ラブ・アンド・ピース」が標語となった時代でもあります。シルバスタインは兵役についていますが、戦いには反対のようです。綱を引っ張りあうだけでもいやなので、ハグをしようと訴えています。様々な国で民族紛争が起こっている時代に、こういわれても説得力がないように聞こえるかも知れません。しかし一つの理念としてこのように主張することの意味は大きいと思います。それが今現実でなくとも、向かうべき方向を示してくれるからです。六〇年代というのは、どんなに大げさな理念を語っても、みんながまじめに聞いてくれた時代でした。シルバスタインの作品の中には当時へのノスタルジーをかき立てるものがあります。しかし時代の違いを抜きにしても、このようなメッセージは今後も伝わっていくと思います。■（小泉 186）

（注）ただし、本文中に著者名を挙げているときは、かっこ内はページ番号だけでよい。

例) (Allen 136-37) → (136-37)

(小泉 186) → (186) ※ただし( )の前のスペースは全角。

## 2. 本文中の引用の傍証

### a. 英語の文章の傍証

傍証の位置に注意

順番は、“引用”「訳」(傍証) ※“ ”と( )は半角。

例)

「まだ見ぬ地」への冒険は“a real adventure with the self”「自己との真の冒険」(qtd. in Kummings and LeMaster 162)になると、ナラヤナ・チャンドラン(Narayana Chandran)は言う。

## 3. 音楽、音声・映像作品の傍証

音楽や音声・映像作品における傍証のルールは、書籍のルールと少し違っている。著者名の代わりに作品のタイトル、そしてページ数の代わりに引用箇所の再生時間を記す必要がある。また、再生時間はしっかりと確認し、正確に記す必要がある。その他の基本的なルールは書籍のルールと代わりはない。以下に英語版と日本語版の例を記す。

### 英語例)

Buffy's promise that “there's not going to be any incidents like at my old school” is obviously not one on which she can follow through (“Buffy”00:03:16-17).

- a. 半角の括弧で括る。
- b. 著者名の代わりに、作品名をイタリック体で記す。
- c. ページ番号の代わりに、引用内容の時間を記す。
- d. 作品名はクォーテーションマークで括る。
- e. 作品名と時間の間は、半角スペース 1 マス分を空ける。

#### 日本語例

谷川俊太郎は、詩を創作する最初のプロセスとして「自分を空っぽにするっていうことに一生懸命集中するんです。」(『詩人・谷川俊太郎さん』 00:01:52-56) と述べている。

- a. 全角の括弧で括る。
- b. 作品名は『』で括る。
- c. 作品名と時間の間は、半角スペース 1 マス分を空ける。

#### 4. 引証資料リストに同じ姓の著者がいる場合

- a. 筆者が外国人の場合  
最初のイニシャルを加える。  
例) (G. Allen 136-37)
- b. 筆者が日本人の場合  
フルネームを書く。  
例) (酒本雅之 88)

#### 5. イニシャルも同じ場合はフルネームを書く。

これは筆者が外国人の場合も日本人の場合も同じ。  
例) (Gay Allen 136-37)  
(酒本雅之 88)

#### 6. 著者、編集者が複数いる場合 (MLA 第 8 版)

- a. 2 人の場合、各人の姓を出す。  
例) (Cummings and LeMaster, 984)  
(高田・板橋 87)
- b. 3 人以上 (MLA 第 8 版より)

(1) 書誌の見出しの形式に従い、最初に挙げられている著者の姓を書き、そのあとに et al. と記す。

例) (Cummings, et al. 85)

(2) 日本語の場合、3 人の姓を出すか、書誌の見出しの形式に従い、最初に挙げられている著者の姓を書き、そのあとに「ほか」と記す。

例) (高田ほか 87)

(注) 傍証に入れる著者が複数の場合は、アルファベット順ではなく、本のタイトルページなどの記載順に書く。

## 7. ページ引証が必要ない場合

### a. 1 ページものの作品からの引用

非印刷物（映画、テレビ番組、録音、上演、電子出版物など）

ただし、「パラグラフ」は存在する作品（電子出版物等）では、ページ番号の代わりに par.（パラグラフの略）を載せる。

例) “The debut of *Julius Caesar*,” (ここまでが作品タイトル) according to Sohmer, “proclaimed . . . listen with the inner ear” (par. 44).

## 8. ページ付け区分がない非印刷物 (MLA 第 6 版 6.4.1.)

その作者、编者、ディレクター、俳優などの個人名はかっこ内傍証に入れるよりも本文中に含めるほうが好ましい。

## 9. 複数巻の作品 (MLA 第 6 版 6.4.3.)

複数巻の作品の巻、ページ番号を引証するときは、

英語では(作者名(编者名) 巻番号 コロン(:) ページ番号)の順に書く。

日本語では(作者名(编者名) 巻番号 ページ番号)の順に書く。

(例) (Grier 5: 1925) ※( ) 含めすべて半角

(原 5 84) ※数字とスペースは半角、それ以外は( ) 含め全角。

## 10. 表題の引証 (MLA 第 6 版 6.4.4. 参照)

引証資料リストにアルファベットまたは五十音順に配列してある作品はその表題をかっこ内に引証する。

その表題は短いものは全部書く。長い場合は短縮したものを書く。

また、辞書の項目のうち特定の定義を引証する場合は def. という略語の後に関連事項(定義番号、記号など)を明記する。

例)

“whisper”は“a soft rustling or murmuring sound. A rumour or piece of gossip”  
 (“Whisper,” def.1)「柔らかく、サラサラとした音もしくはかすかな音。あるうわ  
 さやむだ話の1つ」と定義される。

#### 11. 団体等発行の著作物の引証 (MLA 第6版 6.4.5.)

団体等の発行による著作物を引証するには、

(団体名 ページ)となる。

例) (Government Printing Office, Washington, DC 88-102)

しかしこのように長い名称は大変幅をとるので、本文に組み入れるのが好ましい。

(注) 本文に名称を入れた場合、かっこ内参照はページ番号だけになる。

また、かっこ内に団体名を省略して入れる場合は一般的に用いられている  
省略形を使う。

例) (GPO 43)

#### 12. 同一著者(たち)による複数の書物の引証 (MLA 第6版 6.4.6.)

同一著者による2冊以上の著作物のうちの1冊のかっこ内傍証は、

(著者名 コンマ(,) 表題 (イタリック) ページ) となる。

例) (Allen, *Walt Whitman* 225)

表題は短いものならば全て書く。長い場合は短縮したものを書く。

(注) 本文中に著者名と表題を挙げている場合はページのみをかっこ内に記す。

本文中に著者名を挙げている場合は表題とページのみをかっこ内に記す。

#### 13. 間接資料(なるべく使わないように) (MLA 第6版 6.4.7.)

できるだけ原資料を使うほうがよいが、間接資料しかない場合(例えば原資料が  
廃盤になっていて手に入らない等)がある。その時は他の書物からの引用をまた  
引用するということになる。その際のかっこ内傍証は、間接資料を引用している  
ことを明記するために、qtd. in (quoted inの略語)をつける。

例)

“God’s human aspect, God incarnate . . .”(qtd. in Cummings and LeMaster 112).

## ～※以下、追加点です～

### ① 1つのパラグラフ中に2回以上引用する場合（※他の出典が間に挟まない限り）

例： *Romeo and Juliet* presents an opposition between two worlds: “the world of the everyday. . . and the world of romance.” Although the two lovers are part of the world romance, their language of love nevertheless becomes “fully responsive to the tang of actuality” (Zender 138, 141).

コメントの追加 [1]: “the world of the everyday. . . and the world of romance.”の参照ページが 138 で、“fully responsive to the tang of actuality”の参照ページが 141。ページ数の間はカンマで、その後に 1 スペース。

### ② 1つの引用を2つに分ける場合（※他の出典が間に挟まない限り）

例： *Romeo and Juliet* presents an opposition between two worlds: “the world of the everyday,” associated with the adults in the play, and “the world of romance,” associated with the two lovers (Zender 138). *Romeo and Juliet*’s language of love nevertheless becomes “fully responsive to the tang of actuality” (141).

コメントの追加 [2]: 同じページの引用箇所の引用後に傍証を書く。

### ③ パラグラフ全体が引用箇所に関する場合

例： According to Karl F. Zender, *Romeo and Juliet* presents an opposition between two worlds: “the world of the everyday,” associated with the adults in the play, and “the world of romance,” associated with the two lovers (138). *Romeo and Juliet*’s language of love nevertheless becomes “fully responsive to the tang of actuality” (141).

コメントの追加 [3]: 他の出典が間に挟まない限り、著者名は省略。

#### これに自分の意見を述べる場合

例： According to Karl F. Zender, *Romeo and Juliet* presents an opposition between two worlds: “the world of the everyday,” associated with the adults in the play, and “the world of romance,” associated with the two lovers (138). *Romeo and Juliet*’s language of love nevertheless becomes “fully responsive to the tang of actuality” (141). I believe that. . .

コメントの追加 [4]: 論文の最初に著者名を述べるほうが良い。そうすれば、傍証中の著者名は省略。

## 6.4.4. 文献リストにタイトルで記載されている著作物を注記する

文献リストにアルファベットまたは五十音順に配列してある作品はその表題をカッコ内に引証する。その表題は短いものは全部書く。長い場合は短縮したものを書く。

例) **The nine grades of mandarins were “distinguished by the color of the button on the hats of office” (“Mandarin”).**

短縮したものを書くときは、文献リストのアルファベット順配列の最初の語で始める。例えば、*Glossary of Terms Used in Heraldry* を *Heraldry* と短縮してはならない。その短縮形では読者は、g ではなく、h で文献事項を探すことになるからである。

コメントの追加 [5]: 引用した著者の意見と自分の意見が辞混合しないように I believe that. を書く。

また、辞書の項目のうち特定の定義を引証する場合は def. という略語の跡に関連事項（定義番号、記号など）を明記する。

例) Milton's description of the moon at "her highest noon" signifies the "place of the moon at midnight" ("Noon," def. 4b).

#### 6.4.5. 団体が著者である著作物を記載する

団体などの発行による著作物を引証するには、

(団体名 ページ)となる。

例) (United Nations, Economic Commission for Africa 79-86)

しかしこのように長い名称は大変幅を取るので、本文に組み入れるのが好ましい。

(注) 本文に名称を入れた場合、かっこ内引証はページ番号だけになる。

例) (1-2, 4-6)

また、かっこ内に団体名を省略している場合は一般的に用いられている省略形を使う。

例) (Natl. Research Council 15) Natl=national

#### 6.4.6. 同一著者による2つ以上の著作物を記載する。

Shakespeare's *King Lear* has been called a "comedy of the grotesque"  
(Frye, *Anatomy* 237).

・かっこ内説明↓

① 著者の姓→②, (コンマ)→③著作物のタイトル→④参照ページ

(引用文献リストに) 同一著者による著作物が2つ以上あり、その内ひとつをかっこ内で注記するときは、著者の姓のあとにコンマを打ち、そのあと(短ければ)著作物のタイトル、またはその短縮形、および参照ページを記す。

例: (Frye, *Double Vision* 85), (Durant and Durant, *Age* 214-48).

もし本文中に著者名を挙げている場合は、題名と参照ページのみをかっこに入れる。:  
(*Double Vision* 85), (*Age* 214-48).[イタリック体は原稿では下線で示される。]本文中に著者名と題名を含んでいる場合は、かっこ内では関連するページ番号を記すだけでよい。

例: (85), (214-48).

#### 6.4.7. 間接資料を掲載する場合

Samuel Johnson admitted that Edmund Burke was an “extraordinary man” (qtd. In Boswell 2: 450).

・かっこ内説明↓

① quoted in の略→②間接資料

資料は、可能であれば常に、2次資料からではなく、原資料からとる。しかし、間接的な資料しか入手できないこともある。たとえば、誰かの高等での発言を別人が印刷記事にしたようなときである。引用あるいは言い換えをする箇所そのものが引用である場合は、かっこ内注記では *qtd. in*(quoted in の略)と記して、そのあとに間接資料を書く。(注で原資料を典拠明記してもよい；6.5.1を見よ。)

#### 6.4.8. 文学書・宗教書を記載する

【例①～古典散文作品の場合～】

《例①》

In *A Vindication of the Rights of Woman*, Mary Wollstonecraft recollects many “women who, not led by degrees to proper studies, and not permitted to choose for themselves, have indeed been overgrown children” (185; ch. 13, sec. 2).

・( )内説明↓

{ページ番号}; {省略形<chapter→ch>}. {番号<13>}. {省略形②<section→sec>}. {番号②<2>}

コメントの追加 [6]: 第6版では下線が引いてありましたが、第7版ではイタリック体になりました。



【例②～古典韻文作品の場合～】

《例②》

**Antony**            **Dec.**    I am call'd *Decretas*,  
**and**                    *Marke Anthony* I seru'd, who best was worthie  
**Cleopatra**            Best to be seru'd: whil'st he stood vp, and spoke  
**V.i**                    He was my Master, and I wore my life  
                            To spend vpon his haters. If thou please  
                            To take me to thee, as I was to him,  
                            Ile be to *Caesar*: if y<sup>e</sup> pleasest not,  
                            I yeild thee vp my life.

5

10

コメントの追加 [7]: 行番号  
省略形 I. 若しくは II. は付けない(数字と混合する  
場合がある為)。

コメントの追加 [8]: V (幕番号), i (場番号)→  
5 幕 1 場のこと。  
それぞれの数字の間はピリオドで区切る。[スペースは  
空けない]

コメントの追加 [9]: 行番号

- ・ ページ番号は全て省き、構成区分( act 「幕」, scene 「場」, canto 「編」, book 「巻」, part 「部」 )と行を記載する。それぞれの数字の間はピリオドで区切る。[ スペースは空けない ]
- ・ 行番号だけを書く場合、省略形 I. 若しくは II. は付けない(数字と混合する場合がある為)。  
初出の箇所、非省略形 line または lines を使用し、その後は数字のみ挙げる。
- ・ 構成区分やページ番号には、基本アラビア数字を用いる。端書や他の箇所でローマ数字が使われていれば、それらのページ記載にはローマ数字を用いる。
- ・ 巻や部、章の表示は、たとえ原本でそうでなくても、アラビア数字を用いる。
- ・ 教員によっては、戯曲の幕、場の記載にはローマ数字の使用を好む人もいる。(上記例②参照) その場合は教員に従う。しかし、教員が特に表記法を指示しない限り、アラビア数字を用いる。

【例③～聖書の場合～】

〈本文内での引用例〉

In one of the most vivid prophetic visions in the Bible, Ezekiel saw “what seemed to be four living creatures,” each with the faces of a man, a lion, an ox, and an eagle (*New Jerusalem Bible*, Ezek. 1.5-10). John of Patmos echoes this passage when describing his vision (Rev. 4.6-8).

- ・ Bible 等、一般のテーマの場合はイタリック体にしない。全タイトルまたは特定の短いタイトルの場合は、イタリック体にする。(MLA 第7版 3.6.5 参照)
- ・ 文の途中で引用詳細情報を入れたい場合、聖書の各巻や、有名文学作品は省略形で示す。(Rev. 4.6-8)

コメントの追加 [o10]: 第6版では下線が引いてありましたが、第7版ではイタリック体になっていました。

コメントの追加 [o11]: 本の題名→章番号→節番号の順。(ページ番号は記載しない)

コメントの追加 [o12]: Revelation(ヨハネ黙示録)のこと。

〈参考文献記入例〉

*The New Jerusalem Bible*. Henry Wansbrough, gen. ed. New York: Doubleday, 1985.  
Print.

・通常、版の題名から書き始めるが、編集者や翻訳者の名前から始まる事もある。

コメントの追加 [o13]: 第6版では下線が引いてありましたが、第7版ではイタリック体になっていました。

コメントの追加 [o14]: 追加項目 [出版媒体]

### 6.5.1. 内容註

論を進める上で本文とは関係ないが、その論を支えるために必要な定義などを説明しなくてはならない場合、長くなって読者の注意が本文から逸れてしまうのを避けるために、その論に至った背景や語句を、註で説明するのが望ましい。

Brooks's "The Ballad of Chocolate Mabbie." Is a poem about a series of proposed metonymic relations (Mabbie next to the grammar School gate, Mabbie next to Willie Boone) that concludes with the speaker's hopeful recognition that if Mabbie aligns herself with like figures (her "chocolate companions") she will achieve a positive sense of a self-reliance ("Mabbie on Mabbie to be").<sup>1</sup>

コメントの追加 [s15]: 論の最後に上付き

#### 註

1. In this paper, I follow the definition of *metonymy* as a figure of contiguity. For a good definition of the term, see Martin.

コメントの追加 [s16]: 定義をどこから引っ張ってきたかの説明

コメントの追加 [s17]: この本を参考にしたということ

#### 引証資料

Brooks, Gwendolyn. "The Ballad of Chocolate Mabbie." *Selected Poems*. New York:perennial-Harper, 2006. 7. Print.

Martin, Wallace. "Metonymy" *The New Princeton Encyclopedia of Poetry and Poetics*. Ed. Alex Preminger and T.V.F.Brogun. Princeton: Princeton UP,1993. *Literature Online*. Web.26 Mar. 2008.

コメントの追加 [s18]: 引証資料リストにも載せる

### 6.5.2. 文献注

内容注と基本は変わらないが、本文とは直接関係無い、参考程度の情報を載せる際は文献注を用いる。

Many Observers conclude that health care in the United States is inadequate.<sup>1</sup>

Technological advancements have brought advantages as well as unexpected problems.<sup>2</sup>

#### 註

1. For strong points of view on different aspects of the issue, see Public Agenda Foundation 1-10 and Sakala 151-88.

2. For a sampling of materials that reflect the range of experiences related to recent technological changes, see Talyer A1; Moulthrop, pars. 39-53; Armstrong, Yang, and Cuneo 80-82; Craner 308-11; and Fukuyama 42.

#### 引証資料

Arm Strong, Larry, Dori Jones Yang, and Alice Cuneo. "The Learning Revolution: Technology Is Reshaping Education—at Home and at School." *Business Week* 28 Feb. 1994: 80-88. Print.

Craner, Paul M. "New Tool for an ancient Art: The Computer and Music." *Computers and the Humanities* 25.5 (1991): 303-13. Print.

Fukuyama, Francis. *Our Postmodern Future: Consequences of the Biotechnology Revolution*. New York: Farrar, 2002. Print.

Moulthrop, Stuart. "You Say You Want a Revolution? Hypertext and the Laws of Media." *Postmodern Culture* 1,3 (1991): n. pag. Project Muse. Web. 8 Aug. 2007.

Public Agebda Foundation. *The Health Care Crisis: Containing Costs, Expanding Coverage*. New York: McGraw, 1992. Print.

Sakala, Carol. "Maternity Care Policy in the United States: Towar a More Rational and Effective System." Diss Bosten U, 1993. Print.

Taylor, Paul. "Keyboard Grief: Coping with Computer-Caused Injuries." *Globe and Mail [Tronto]* 27 Dec. 1993: A1+. Print.